

昭和63年1月18日第三種郵便物認可  
8月号/平成30年8月1日発行



www.yuai.jp

あなたがいる、わたし、がある。

# ゆうあい

特集

「ギャラリィゆうあい」



社会福祉法人侑愛会  
学校法人ゆうあい学園  
www.yuai.jp

## お菓子

橋本 信也  
Hashimoto Shinya

海外のお菓子の箱を見本として描きました。  
見本を参考に、愛らしく描かれた絵が特徴です。



巻頭レポート

# 広報活動について考える

ワークショップはこだて

小谷 高大

Kotani Takahiro

この春、侑愛会に新しい常置委員会が加わりました。名前は広報委員会。活動の一つの柱は機関誌「ゆうあい」の編集発行、そしてもう一つは昨年度リニューアルされたホームページの管理運営です。

広報という、一般には社外PR活動のことを指す場合が多いようです。「福祉の仕事は、見た目でなくて中身で勝負でしょう。見た目を良くするのに労力やコストをかけてどうするの？」という疑問の向きもあるかもしれません。ごもつともです。しかし一方では、利用者ファーストをモットーとする私たちの法人だからこそ、欠かせないテーマの一つだとも言えるのです。また、昨今深刻化している人材確保の話題とも切っても切れない課題でもあります。今回の巻頭レポートでは、これからの広報活動に求められる役割や意義について考えてみたいと思います。

戦後長く続いた福祉のあり方を根本から改めようとした社会福祉基礎構造改革の一つとして、措置制度から利用契約制度へと変わったのが平成15(2003)年のことです。利用する方たちが主体となつて、「いつでもどこでも、だれでも」必要なときに必要なサービスを受けられることの出来る社会を目指していきましようと言われました。サービスの選択肢を増やすために、営利目的の業者もどんどん参入してきました。私たち事業者は、福祉サービスが必要とする方たちから取捨選択される時代となつたのです。

とは言っても正直なところ、特に私たち事業者にはその実感は乏しいものでした。こうして今はほとんど違和感なく「サービス」という言

葉も使っていますが、福祉業界ほど「サービス」といったものに縁遠いところには業界もありません。何せ、措置という行政処分の「受け皿」という立場が戦後50年以上も続きました。利用する方たちから選ばれる立場になつたことはもちろん、対等な関係でさえも咀嚼するのに長い時間が必要のように思えました。

一方で、利用する方たちの立場に立つと「選べたって言ったって」と、当事者が選択するに足る情報を得ることは簡単なことではありませんでした。知る努力をしようにも、相手は知ってもらおうと努力してきた業界ではありませぬ。福祉業界に関する情報不足が大きな壁として立ちほだかつたのです。同様に、福祉関係者ではない人たちにとつても、福祉業界は謎の多い世界でした。近親者に当事者がいないと、無縁で未知の世界となりがち。世間一般でも、福祉に関する関心や問題意識は大きく育つことは難しかったように感じます。

しかし、時代は変わりました。当事者の方たちがより良い福祉サービスを選択するために、正確な情報や正しい知識を得ることが必要不可欠となりました。また、事業者にとつても事業の透明性や積極的な情報開示が求められる、自分たちの活動を誰からも分かつてもらえるように公開、また理解してもらえようという工夫や取組みを行うことは社会的責任としても必須となつていきます。

つまり、広報の目的とは「理解してもらおう」と。広報の充実とは「伝える力を高めること」と言えそうです。伝える力、というときに大事したいことがあります。それは、発信する側が「伝えたいことを伝える」という視点だけで

なく、知りたい側が「知りたいことを伝える」という視点です。この視点も、福祉業界に長くいる人は苦手としていたことの一つかもしれません。しかも、その自覚に乏しいことが往々にあります。「私たちは、このように立派な仕事をしています」ということを一方的に、しかも難解な言葉で伝えて満足してしまうような。私も気付くと、見学される方や新人職員、求職学生に対してやってしまっていることがあります。

法人の特徴や強みを一方的に発信するだけではなく、対象者の分かる言葉で、知りたい事柄について、伝える力を持つ。そして、その理念や活動に共感してもらおうことで選ばれることが大事のような気がします。以上が、福祉業界に広報の充実が叫ばれる内在的要因だとすると、外在的要因は、90年代から始まったインターネットや携帯電話などの急速な普及と言えるでしょう。

侑愛会では、こうした要因を背景に広報の充実を目指してきたということだけではなかつたような気がします。機関誌「ゆうあい」も、ゆうあいの郷から離れて住む「家族へのお便り」としてずっと大切にされてきました。機関誌も、ホームページも、その他の広報活動も、全ては利用する方たちのためになることを願う。欲張れば、それらが侑愛会に関わる全ての人たちのささやかな幸せになることも願う。課題は山積みですが、今後も侑愛会の広報の充実を目指していく所存です。ご指導下さい。



社会福祉法人侑愛会  
学校法人ゆうあい学園  
www.yuai.jp





### ヘアリボンの少女 ピーチバージョン

春菜 俊明 Haruna Toshiaki  
リキテンシュタインへのオマージュです。

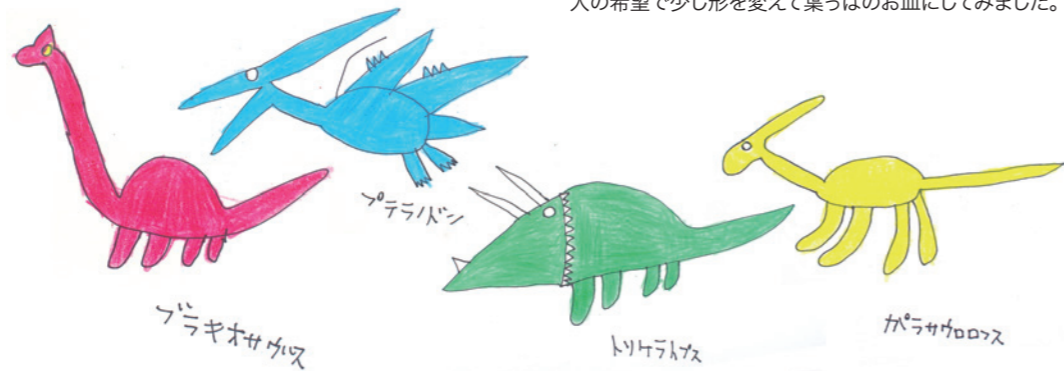


### 葉っぱのお皿

稲田 康恵 Inada Yasue  
普段作っているお皿と違うものを作りたいという本人の希望で少し形を変えて葉っぱのお皿にしてみました。

### ぼくの好きなもの

馬場 徹  
Baba Toru  
作っているとき、たのしかった。  
ぼくが、たくさん書きました。  
きょうりゅうの名前を言っ  
て、たのしそう。絵、上手に  
できました。



### 無題

雁原 寛幸  
Ganbara Hiroyuki  
一寸の狂いもなく放たれる  
筆先が一瞬一瞬を繋げた  
時、それは力強い線となり  
輪となってゆくのです。

### 無題(ティッシュカバー)

竹田 あゆみ  
Takeda Ayumi  
ミシンを使わずにすべて手縫いで丁  
寧に仕上げました。

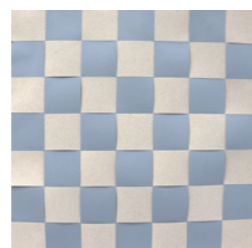


### ラッパ、音楽隊他→まついあきひろ→色いろいろ→

松井 章洋 Matsui Akihiro  
作品のテーマとなる絵、自分の名前など、どんどん色鮮やかに重ねて描かれています。

### 紙編み 市松模様

安藤 光祐  
Ando Kohsuke  
二色の画用紙を組み合わ  
せ、編んで作りました。様々  
な色の模様ことができました。



### ひよこ(モザイクタイル画)

小松 和也  
Komatsu Kazuya  
2017年が酉年だったので、干支に  
ちなんで作ってみました



### 夢に乗せて飛んで行く、昔話の世界

陶工房めぐる  
昔懐かしいお話を思い浮かべながら、独特なタッチで  
陶器に描いています。

### 無題

下村 裕  
Shimomura Yutaka  
5mm大の大きさにちぎった色紙を1枚ずつ丁  
寧に貼り付けています。



### 無題

安藤 則子  
Ando Norihiko  
丸く切った色画用紙にひとつひとつ  
丁寧に顔を描きました。出来た作品  
はシールにして使用しています。



### 無題

小野寺 吉彦  
Onodera Yoshihiko  
おやつに飲んでいるコーラのラベル  
からアイディアが浮かびました。毎日  
コツコツと丁寧に仕上げています。



### 中田翔

田村 英治  
Tamura Eiji  
ファイターズが好きで、いつも応援し  
ているから描きました。



### 無題

三春 怜慈  
Miharu Reiji  
全部一人で作りました。ま  
だ新しいのも作っているし、  
今までの部屋にたくさん  
あります。





社会福祉法人侑愛会  
学校法人ゆうあい学園  
[www.yuai.jp](http://www.yuai.jp)